

# 2022年12月16日 第3412回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長  
<斉 唱> 「それこそロータリー」 ソングリーダー 佐久間博一 会員  
<ゲスト紹介> \*読売巨人軍前投手コーチ  
・読売巨人軍社長付アドバイザー 宮本和知様  
\*司法書士横須賀うみかぜ事務所 所長 長坂利広様  
\*横須賀商工会議所青年部 会長 森本靖之様  
副会長 鈴木隆行様  
\*株式会社ブルーダイヤモンド 代表取締役 垣谷まこと様  
\*共創未来薬局 薬局長管理薬剤師 萩原英恵様  
<ビジター紹介> \*国際ロータリー第2840地区パストガバナー 田中久夫様 (高崎RC)  
\*横須賀北ロータリークラブ 福島義信様

- <会長報告> \*第1グループ会長幹事会報告  
\*ガバナー事務所より  
・RI第2780地区2025-26年度地区ガバナーノミニ候補者告知の件について  
候補者：松下 孝様 (伊勢原ロータリークラブ)  
職業分類：情報システム 生年月日：1960年6月6日 (62歳)  
・2023-24実施年度向け第2回地区補助金説明会  
補助金管理セミナーのご案内について  
1月28日(土)14:00~17:00 於：第一相澤ビル6・8F 会議室

- <委員長報告> \*社会奉仕委員会加藤(淳)委員長及び国際奉仕委員会新倉(良)委員長より  
2022~2023年度社会・国際奉仕委員長研修会 報告  
\*出席委員会鈴木(豊)委員長より  
2月10日(金)出席率100%例会開催予定のお知らせ

- <幹事報告> \*ガバナー月信 NO. 6の案内  
<出席報告> \*出席委員会 猿丸委員より12月16日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
115名	108名	73名(5名)	35名	4名	71.30%

## <ニコニコ報告>

- ・国際ロータリー第2840地区パストガバナー 田中久夫様 (高崎RC) 本日は宜しくお願ひします。
- ・福島 義信様 (横須賀北RC) いつもお世話になります。
- ・梁井、大野、南、大石、長谷川、比護、松本、福西、岩崎、杉浦、田中、浅葉、高橋、齋藤、植田、上林、波島、濱田、勝間、徳永、勝見 各会員  
読売巨人軍前投手コーチ/読売巨人軍社長付アドバイザー 宮本和知様、本日は横須賀RCにお越しく下さり有難うございます。本日の卓話どうぞ宜しくお願ひします。
- ・大野、椿、小林(-)、新倉、前川、高橋、田邊、小平、濱田、勝間、勝見、澤田 各会員  
横須賀商工会議所青年部 会長 森本靖之様、副会長 鈴木隆行様、株式会社ブルーダイヤモンド 代表取締役 垣谷まこと様、共創未来薬局 薬局長管理薬剤師 萩原英恵様、司法書士うみかぜ事務所 所長 長坂利広様 ようこそ横須賀RCへお越しく下さいました。本日の例会ごゆっくりお過ごしください。
- ・波島 会員 萩原英恵様いつも薬局で大変お世話になって有難うございます。

- ・児玉、北村、福西、高橋、小林、吉田、齋藤、飯塚、八巻、齋藤、澤田、徳永 各会員  
国際ロータリー第2840地区パストガバナー 高崎ロータリークラブ 田中久夫様、横須賀北ロータリークラブ 福嶋義信様 ようこそ横須賀ロータリークラブにお越しくださいました。本日の例会をお楽しみください。
- ・三 役 当クラブのオープン例会にお出で頂きまして有難うございます。たっぷりとお楽しみくださいませ。
- ・鈴木、田村、猿丸、加賀本 各会員 12月13日、出席委員会の会合がありました。前田会長、瀬戸幹事ごちそう様でした。2月10日例会、出席率100%頑張るぞ〜！！
- ・石田、馬場、松岡、小山、高橋、田邊、木村、渡邊、藤村、澤田、兼城 各会員  
サッカーW杯、決勝はアルゼンチン vs フランスですね。ボクシング、井上尚弥は圧巻の4団体統一王者！そして新春1月4日から春高バレーが始まります。4年ぶり2度目の出場の三浦学苑女子バレーボール部の活躍に期待です。
- ・徳永 会員 写真をいただいて

## <卓 話> 「野球で掴んだ人生論」

読売巨人軍前投手コーチ  
読売巨人軍社長付アドバイザー  
宮本和知様

現在、私は巨人軍の社長付きアドバイザーであり、プロ野球でも女子チームが今回作られることになり巨人軍女子チームの監督やジャイアンツアカデミーの校長という巨人に奉仕している宮本でございます。本日は、貴重なお時間いただきありがとうございます。

横須賀では、金曜日にはカレーを食べる習慣があるということで私も先ほど、カレーを頂きました。私と横須賀の関係というのは、私の家内の父が横須賀生まれです。堀ノ内出身で、日本舞踊の流派の理事を務めていて、小泉純一郎先生にも踊りを指導していたというのが家内の親父のことでございます。

今、私は葉山で少年野球チームを指導している元巨人軍の宮本でして、神奈川県なのに巨人軍・宮本って言うてしまって、ちょっとアウェイな感じはするんですけども、その中で、横須賀の少年野球チームと試合をさせていただいたり、横須賀支部に我々のチームもお世話になっていたり色々そんな関係で、横須賀には来させて頂いています。そして私の娘も、横須賀学院高校に通っています。そのような関係で、私は横須賀との関係が非常に深いということで、今回は皆さんと会える事を楽しみにしてまいりました。

今日のテーマは「野球で掴んだ人生論」です。大した意味は無いのですが、今日はオリンピックで貰った金メダルを持ってきました。写真を撮っても、触って頂いても結構です。東京ドームの野球博物館に置いていたメダルがちょうどいいタイミングで帰ってきたので持ってきました。なかなか、このメダルも営業して



くれてテレビ等で使って頂いたり結構、活躍してくれるんです。今日は野球で掴んだ人生論という事で、私が何故、野球と出会ったかをお話します。

僕が野球を始めたのはちょっと遅く、中学校から始めました。小学校は、山口県の下関市です。故安倍元総理には私が巨人に入った頃もお世話になりました。お父様の安部晋太郎先生には僕の後援会の顧問をやって頂いたり、後援会の時に晋太郎先生が来られない時には故安倍元総理が来てくれました。

山口県の下関は海に囲まれた町です。野球というスポーツがあまり盛んでは無かったです。サッカーの方が盛んで、僕も小学校2年生からサッカーのチームに入って山口県の県大会で優勝もしました。僕は男3人兄弟の真ん中で弟と2人でサッカーをやっていました。兄貴は野球やってました。サッカーでは宮本兄弟、僕と弟は山口県では有名で、県大会で優勝しました。

中学校ぐらいになると、なぜか将来のことを考えました。当時サッカーはプロのリーグは無かったです。そういった組織がありませんでした。当時は日本リーグと言って、読売クラブや古河電工、藤田工業などが所属するアマチュアの組織だったんです。そこで友達と「おい、このままサッカーをやっていくのはどうなんだろう。どうせやるのであれば、プロの組織がある野球をやろうじゃねえか!」と友人と2人で中学校1年生の夏にサッカーを辞めて、野球部に入りました。僕は背が低くて、左利きで、守るところも限られてしまうのですが、中学校の時は元気だけあったんで、キャプテンとして、チビのファーストで、とにかくボールが上行ったら取れねえけど、下はなんでも取るぜっていったような感じでした。キャプテンをやりながら、中学校3年間過ごし、高校入ってもまだ身長は160cmしかなかったんです。本当にチビで、小学校の整列時は最前列で、ずっと手を腰にあてていました。高校でもそんなに身長伸びなかったのですが、それでも高校3年間で身長が13cmぐらい伸び、173cmぐらいまでは伸びました。山口県の大会では準決勝まで行きました。中国地方の大会に出してもらったんです。

高校の時は、甲子園も出たことない県立の工業高校だったんです。下関工業高校です。ユニフォームがちょっとカッコ良かったです。熊本工業みたいなグレーのユニフォームで熊工って感じです。関工、下関の関と工業の工で、本当に熊工そっくりなんです。だから人気あったんです。だから、中学校の時は野球をやったことのない選手も野球部に入れる。そんなアットホームな野球部だったんです。確かに男子校だったので工業高校ですから、相当しごかれました。その中で3年間高校を耐えろ、耐えるのだ、3年間耐えろと就職が待っている。すごく就職率が高かったのです。皆さん方の中にも同年代の方がおられると思うのでお分かりになると思いますが、スポーツいわゆる高校でスポーツ部、そしてもう1つは根性!根性!という応援団とかを3年間やると、就職率が本当に良かったんです。だから、とにかく歯を食いしばって、先輩たちに蹴られ、殴られようが、もう耐えた3年間でした。そして山口県ではある程度勝ち、名の知れる高校になったので自分の中ではピッチャーをやった良かったと思います。でも山口県の野球のレベルは、そんなに高くなく低かったです。

卒業して社会人野球に入りました。大学に行ってまた殴られ蹴られたりするの嫌だ、と思い就職しました。当時、鉄鋼大手5社といわれる会社には住友金属、新日鉄、神戸製鋼などがありましたが、そのうちの川崎製鉄に野球で入りました。当時大手5社が潰れる時は、日本が潰れる時だと言われ、やはりバブル前の時代だったので、僕の頭の能力では到底入れない大企業の1つでした。野球で入れたっていうのは、僕にとってはもう人生そこで完結です。親孝行ができました。勉強しなくても俺は、大手企業に入れたんだという、スポーツだけで、野球だけで来た人間なんで、当時は親父も、相当喜びましたね。しかし、入社後に見たくないものを見ちゃったんです。見てしまった時はこれはどういう事かと思いました。鉄鋼の会社ですから、現場ではH型工とかシートパイルとか色んな鉄の形を製作していました。事務所で仕事の整理をしていた時

のことでした。そこで見た光景とは、大卒で就職し当時3年目、4年目ぐらいの人が、大きな机に座って偉いんです、その人が現場で汗まみれになった定年前の班長さんに対して怒鳴ってたんです。これを見た時に、あれ?と思ったんです。僕は縦社会できたものですから、やっぱり年が1つでも上の先輩の言うことには白か黒だけでも、黒って言われれば黒とっていました。私はそういう人間だったんで、隣の席の安田さんっていう方に、「なんであんなひどいこと言ってるんですか、だって人生の先輩ですよ。あの班長の方が年上じゃないですか。」と言ったら、「宮本くんこれが学歴社会ってもんだ」って言われたんです。「そうか、じゃあ安田さん、僕もあれですか。30年後とか40年後、あんな感じですか。」と尋ねたら「当たりまえだろ!」って。「お前、野球しかやってないのだから」って。その時私、ちょうど社会人2年目でした。高校から社会人野球に入った場合は、3年間やらないとプロに入れないんです。大学から社会人に来た選手っていうのは、2年間でプロに行けるのですが私の場合は高卒なので3年間、あともう1年やらなきゃいけない。一旦、僕は野球人生完結したんで、野球っていうのはフラフラやってたんです。そこで、その光景を見て、その安田さんの話を聞いて、将来の自分を見てるようで、僕の野球の魂に火がまたついてしまったのです。安田さんを追い抜くには、どうしたらいいか。大学から3、4年目の人ですよ。偉い人を抜くには、お前がプロ行けば抜けんじゃないと言われたのです。人生逆転するぞ、俺は勝てるぞって。「お前がプロ行けばの話だけどな」って言われた時に、よし!と思って、そこから初めてプロっていうのを意識しました。高卒2年目で、都市対抗野球、日本鋼管という会社に補強選手で選ばれたりもしてました。もう少し頑張ればプロ野球行けるかなって言った時が1984年、高卒3年目です。この年にある程度こうやれば、ドラフトに掛かるな、といったグッドタイミングで、まず1984年の5月の終わりに初めてキューバの野球チームが日本に来たんですよ。そこで代表の合宿をやりました。全国から40名集められました。そのうちの20名だけ残りました。それにも選ばれました。キューバと戦ったのは後楽園球場です。8試合やって、1勝7敗だったと思います。1つしか勝てなかったです。日本は我々アマチュアだけです。その時の1勝は私が投げたわけです。当時、あのキューバも、ちょっと時差ボケも入ってたのかもしれないですけど、リリーフで行って4イニング投げたんですけど、全くキューバは僕のカーブを打てなくて、勝ったんです。あの頃の僕はちょっとだけ良いカーブを投げてたんです。それで、日本のアマチュアの野球界に宮本という左のピッチャーがいるんだ、くらいまでは行きました。そしたら、今度はオリンピックっていう舞台があって、ところが我々日本のチームが出る枠はなかったんです。資格がなかったんですよ。なぜ出られたかっていうと当時、アメリカとキューバには国交が無かったのでキューバがボイコットしたんです。ロサンゼルスオリンピックでした。そこで野球1枠空いちゃったんです。その枠に入れたんです。これも何かの縁ですよ。それで、もう時間も無いので、ほんと急遽前回キューバ戦を戦ったメンバーを集めて合宿をやることになりました。キューバを戦ったメンバープラス大学生、その時の大学4年生には、明治の広沢さん、阪神の和田監督、日大ですよ、亜細亜大の古川くんとか色々いたんです。そのメンバーと一緒にジャイアンツに上田和昭さんっていう方が居ました。僕より1つ上でした。同期なんですけど、彼は慶応です。その何人か集められたのと、我々社会人チームでキューバ戦を戦ったメンバー合わせて20名でロサンゼルスに行ったんです。僕はなぜ選ばれたか。僕もキューバ戦で1勝したので、左っていうのはすごい貴重だったのです。当時、なかなか左のいい投手がいなかったんで、ちょっと選ばれてしまったっていうわけです。ロスオリンピックは、台湾からは郭太源、アメリカのチームには、マークマクガイアとウィルクラークやのちに読売巨人軍に来たシェーンマックとかがいました。そういった選手がいて、彼らの予選とかも僕らも見てたんですけど、こんなのには勝てる訳ないだろう!とっていました。日本の野球のレベルは国際大会が無かったものですから、世界でどれぐらいのレベルにあるのかわからなかったんです。日本の野球のレベルは、我々がそのオリンピックでどれだけ世界に通用するかだったんです。それが決勝ですよ。予選から勝ち抜いて、もう決勝進出になった時に、もちろん決勝の相手はアメリカですね、もうこれで負けても銀メダルだ!と。いきなり銀メダル持って帰っちゃうのみたいな。もう優勝なんか頭にないですから。だって、最初の整列時からガムくちゃくちゃくちゃくちゃ食べながらやってるわけですよ。このガムってすごく強く見えたんですね。ただ、くちゃくちゃやってるだけなのに強く見えたんですね。だから、すげえな、余裕なんだなと思ってました。僕も決勝途中から、リリーフで投げたんです。そしたら広沢さんがスリーランホームラン打つし、ヤクルトの荒井、熊野さん、ピッチャー伊東昭光、キャッチャーは阪神の嶋田宗彦（嶋田兄弟のお兄ちゃん）というメンバーで戦って6対3で勝っちゃったんです。まあ、本当に勝っちゃったんですよ!もうこれで世界のいわゆるトップだから、日本の野球界が世界に通用するレベルに居たんだなっていうのが証明されたわけです。アメリカに勝ったイ

コールもう世界一ですから。そして我々アマチュアだけでオリンピックで勝って帰ってきたら、80パーセント、90パーセントの人間がドーンとドラフトにかかってプロの中に入っていったというわけです。僕は、それから13年間、現役をやりまして、原監督の下でコーチを昨年まで3年間やりました。原監督っていう方は、野球以外にもいろんなことを教えてください。とにかくプロの選手だからと言って、お前たちコーチがしっかりして、しっかりした目線でやんなきゃいかん。「監督、プロの選手って何を教えるんですか？」って僕聞いたんです。どうやって指導すればいいんですか？成長する選手っていうのはどんな選手ですか？他のコーチもいたんで、どういった選手がプロで成長していくんですか？もうある程度のレベルに来てるわけですから、特に一軍の選手なんかはどういう風に教えるべきですか？と尋ねました。まず素直さを持つてる、そして謙虚、そして朗らかさ、この3つがいるんですよ。素直、謙虚、朗らかさ、この3つを持った選手は育つ。だからちょっと言ったからといって、そっぽを向くやつは、そんなに育たないよ、と結構言われました。それからというものの僕もいろんなメディアの中で、例えばズームイン朝という番組を21年間やったりしましたが、その中ですごく気を付けていたのはとにかく失敗することを喜ぶってということなんです。失敗したらこう落ち込むじゃねえかって思うんですけど、僕は逆に失敗したいなって思っちゃったりするんですよ。ではなぜ失敗が良いか。この世で一番やっちゃいけないことは、失敗を恐れてチャレンジしないこと。これが一番つまらない人生だからです。自分が良し、と思った時にやっちゃえ、と行ってもダメだった。失敗しました。そこでなぜ失敗したかって思うこと、このクエスチョンマークが1番大事なんです。ああ、こういうことだから失敗したんだ、ミスしたんだってなると、これは自分にとってもプラスなんですよね。失敗から学べるっていう部分ですよ。良く本とかにも出てます。失敗から学べるなんとか。実際僕もそうだと思うんで、だからどんどんミスをしたくなって思っています。自分がまだ未熟で、もっともっと成長できるんだろうと思ってるんで、失敗することが全く怖くない。21年間ズームインやってましたけども、言葉ってすごく大事で、例えば、あのテレビを見てる視聴者の皆さんに、僕の中で決めてコメントしていました。今から同じこと言いますね。この選手に「お前さ、お前、足は早いけど、バッティング悪いよね。」と言うと、すいませんってなるわけですよ。でも「お前さバッティング悪いけど、足早ええよ。」となったら足早に自信が付くのです。これがビジネスの中でもすごく通用して、テレビを見てる方もこの選手は、マイナスはここなんだけど、でもこの選手のいいとこって、ここなんですよって言った方が、見る方は「あ！そうか」ってなるわけですね。でもこの選手、ここはいいけど、でもね、ここが彼の弱点なんです。と言ったら「あ…そうなんだ…」となるのです。だから皆さん、経営者の方、部下の方に言うときこう指導しなきゃいけないです。怒っちゃダメですよ。叱ってくださいね。怒ると叱るを分けなきゃいけないです。特に子供たちには、僕は少年野球チームでやっていますけども、ドーンと感情的に怒るのは、今の子は免疫がないんです。ダメです。そっぽ向いてふいて逃げていきます。だから叱るのです。彼の将来のことを思って、こう叱ってあげる。叱るは彼の気持ちになって、彼のことを、思っていることが叱るですから。叱って必ず最後にお尻をポーンと叩いてあげるようなポジティブなことを言って「よし、行ってこい」っていうような送り出しをして頂くと、子供もそうですけども、これビジネスでも通用することだと思います。僕は小学校で授業もやってたんで、校長先生とかに色々話を聞くと、やっぱり昔は、我々の時代は長所と短所があったら短所を克服しろっていう教育でした。今は長所を伸ばせです。楽しいことをやるっていうのは、生き生きしてますよ。でも、短所をやれていたら、「えー。やりたくねえよ！」ってなっちゃうんですね。だから逆に長所を生かすことです。ただ、これ1つ覚えて下さい。アマチュアは良いですよ。プロになると、自分が弱い部分もやんなきゃいけないですからね。これがアマチュアとプロの違いだと思うんです。だから、まあ皆さんの経営っていうのは報酬を与えてるわけだから、もうこれはプロですから、苦手な分をやらせなきゃいけない。ただ、最後に、ポジティブなことをポーンとこうお尻を叩いてあげるようにやっていききたいな、という風に思いますね。そうすると、やるのは社員ですからね。やってくれなきゃ、困るんですよ。だから、気持ちよくできるような環境を整えることができれば、その組織は必ず成長すると思います。プロ野球もこれから巨人軍の公式の女子チームができます。今はタイガースも作ってます。我々もここに参入して、来年1年頑張っていきたいなと思ってます。

最後に私が一番気を付けている部分があります。常に「ありがとう」感謝の気持ちですね。ありがとうっていう気持ちは大事だと思います。ありがとうの反対は「当たり前」ってことです。子どもたちがこうやって楽しく野球できるのも、保護者のお父さん母さんのおかげだよ。汚れたユニフォームも臭くなったソックスも全部洗ってくれる。毎朝、6時半に起きて、テーブルにはパンかご飯が用意されてる。これは当たり前

じゃないんだよ「ありがとう」なんだよ、と言ったことを常に子供たちには伝えてます。やっぱり感謝の気持ちを持っている子供たちは、本当に優しいです。

江川さんの話とかいろんな話もしたいんですけども時間ということです。私もこれから沖縄に飛んで原監督と一緒に野球教室です。これから向かうので、これで失礼させていただきます。またぜひ、皆さんとお会いしたいなと思っています。今日はどうもありがとうございました。



<閉会・点鐘> 13:30 前田会長

週報担当 浅葉孝己